

建学の精神と教育方針

創設者 平岡 宥峯

本学園は私立高校であります。

私立高校とは、創設者の建学の精神に基づいた独自の教育方針によって教育することであり、その教育方針にご賛同頂ける方に対してのみ教育をするところであります。そのため公立校と違い、学区制が採られておらず、文部科学省が定めた資格を有するものは、希望すれば全国、全世界どこからでも受験することが出来ます。そのことは国家も私立学校法で認めており、しかも私学振興助成法によって財政的にも私学の教育を強力にバックアップしています。

本学園は私が創立いたしましたので、その設立動機と、本学園の建学の精神と教育方針について述べてみたいと思います。

〔建学の動機〕

私は日本の国はまことに尊いありがたい国だと心の底から思っております。と言いますのは、我が国では天皇を国の中心として敬愛し、家にあつては父母を大切にするという美しい生活感情（文化）が日本の社会の根本にあるからです。それは我が国民の神仏に対する信仰心、四恩十善の精神に基づいた敬心崇祖という良き伝統の中で培われてきたものです。

また日本は経済的にも世界に例を見ない発展をして来ており、政治的にも安定している世界一平和な国です。学問、研究の自由も保証されており、その研究実績と目ざましい日本の科学技術の進歩発展は、世界中の国々で注目するところであります。

さらに日本の国は周囲全体が海で囲まれて天然の要塞を成し、また春夏秋冬四季折々の自然の変化に無限の恩恵を得ております。そして何より国民が勤勉であるということなどが主な理由であります。

そこで私は、この尊いありがたい国に自分を生んで下さった両親や先祖に対して、最大の感謝の真心を捧げる意味で次のような姿勢で臨んでまいりました。

日本では仏法最初八宗兼学の道場であると言われ、また大阪の仏壇ともいわれる和宗総本山四天王寺と、その別院である勝曼院には先祖と両親、また私を特別指導して下さった高峰、江間俊一先生、他に学園関係者のご先祖の霊をお祭りさせて頂いております。

祖山高野山に僧籍をおいて、最高の僧階（大僧正）を頂いている私は、先祖や両親、更にこれまで特別に指導して下さった先生方、およびこの尊い国を守るために犠牲になつて亡くなられた先輩の方々にたいして冥福を祈ると同時に学園関係者の幸せを願っています。その為高野山の霊場に供養塔を建て、高野山真言宗別格本山普賢院と、私が管理しています和泉八十八ヶ所、第八十六番札所、高野山真言宗大御堂山光平寺において回向をして、感謝と追福の誠を捧げております。

これがこの大切な国に産み育てて頂いた両親、先祖、および私を特別にお導き下さった先生、並びにこの国を今日まで維持継承して下さった方々や、そのために犠牲になられた多くの方々、そして学園の教育を支えて下さった方々に対する私の姿勢であります。

さて、私は常々、この大切な尊い国を未来永劫に立派に守っていくためには、いかにすれば良いかと考えていました。

「一年の計は穀物を植え、十年の計は樹木を植え、百年の計は人を育てよ」との言葉もあり、また高祖弘法大師が京都に綜芸種智院というわが国最初の私立学校を創立されたことに思いをいたし、恩師江間俊一先生の後継者として、その道を究めるためには学園を創設して子孫の育成にあたる以外に道はないと決意したのであります。

建学の精神

私はこの決意を成就させるために、次のような人材を育てようと考えました。それは次の三つが柱です。

安心できる人

尊敬される人

信頼される人

この安心と尊敬と信頼のできる人間像とは、良いことを積み重ねて、即ち徳を積み、そして身体が健康で、更に素行が正しく、何といっても予算生活に基づいて生活が安定していて、できることなら経済的に余裕があること、すなわち「徳・健・財」三拍子そろった姿において、ルールを守り、世の中のために尽くす人間、つまり福の神であります。

そこで、このように目標に向かって間断なく勤勉努力する人材を育成するという私の理想が、本学園の建学の精神となったのであります。

学園ではこの精神を実現させるために、仏教を中心とした宗教による教育を実施し、清風南海魂を体得するために努力をさせています。

教育方針の基盤

〔清風南海魂の体得〕

清風南海魂とは、社会の全てから安心と尊敬と信頼される人物になるという目標を、実現させる努力のあり方であり、実現させる魂であります。

ではこの清風南海魂とは、どのようにして体得するかを詳しく述べてみます。

第一に、正しい判断力を育成し、鋭い断行力を養うこと。

「海律全書」（今でいう国際法）などを著したフランスの法理哲学者オルトラン博士は「判断力と断行力の二大能力を備えておけば万事行くところ可ならざるはなし」と述べております。このことを私は生徒に対しては、できるだけわかりやすく簡単明瞭に、正しい判断力と鋭い断行力に基づいて、「試験を受けたらパスしてくる」、「試合に行ったら勝ってくる」、「選挙に出たら最高点で当選する」と教えています。試験にパスしたら秀才であり、試合に勝ったら英雄であり、選挙に当選したら代表者、指導者として認められるわけであります。

第二に、先祖伝来の宗教を中心に敬神崇祖の念を養い、信仰心を確立し、信念と不屈の精神力を身につけること。

すべてのことを行う上に宗教の精神を取り入れなければ、何をするにも永続性が乏しく大成しないと思うからであります。第二次世界大戦後、占領軍は日本の教育制度を大改革しましたが、当時私の学園は、戦災で校舎焼失、校地も借地のためやむをえず他校での仮住まいが続きました。何とか学園の安住の地を確保しようとして私は日夜、四天王寺の金堂、法隆寺の夢殿、高野山の奥の院にお願いをし、そして伊勢皇大神宮に五十日の願をかけたのであります。その満願の日に私の所有していた土地を換地として、現在地を手に入れることが出来たのでした。これなどは、全く神仏のご加護のお陰であると深く感謝しています。

しかし、現在地を手に入れた後もジェーン台風の直撃を受け、全校舎倒壊。まさに廃校という危機さえ迎え、財政状態も最悪となり教職員の給与を支払うため売り食いや借金の連続で、血の小便が続く状態に陥りました。当時の桃山病院の熊谷院長から、「命が惜しかったら学園の経営をやめなさい」という助言すら頂く最悪の状態になったのであります。しかし日本一、世界一の学校をつくらうという私の願いと信仰心が、この最大の危機を乗り越えさせたと思います。それぞれの道で大願成就した人物には熱烈な信仰家が多い事実からしても、信仰の重要性を言っているのであります。

第三に、常に節制を守り、体力の錬磨向上を計り、徹底した精進努力をすること。

何と言ってもも人生行路における勝利者となるためには、まず健康でなければなりません。私は小さいときは虚弱児であって、医師から「五つまではもつまい、十まで育つまい」と言われていましたが、その後、あらゆ

る健康法を研究しながら心身ともに健康を維持し、今日までやってまいりました。この研究のなかで、私は摩訶不思議な腹式呼吸を知り、それを現在（九十九才）まで続けてきました。この腹式呼吸は身体を健康にし、頭脳を明晰にする最高の方法です。仏教でもこの呼吸法は最高の修行法になっています。とにかく身体の弱い者は人一倍の養生をし、心身共に強い健康な身体になることです。健康な者は、より強健な身体になることです。そしてその頑健な身体で、社会の全てから安心と尊敬と信頼される人物となるために、常に希望の中に幸福を見出し、明朗にして誠実に、全身全霊をもって可能な限りの徹底した精神努力をすることです。

第四に、礼節を重んじ、父母を大切に、祖先に感謝し、年長者や先生を尊敬すること。

世間には、自由と民主主義を曲解して、先祖・両親・先輩を粗末に取り扱う人が一部にあるように私は感じます。親を粗末にする者は決して大成しないのであります。生みの親はもちろんのこと、育ての親はなお一層大切にしなければなりません。親を大切にすると同時に、年長者や先生を尊敬する姿勢の人物が社会の全てから安心され、尊敬され、信頼されるのです。親を大切にし年長者や先生を尊敬する、このような謙虚な態度でこつこつと根気強く、ねばり強く努力することは、激烈な生存競争のなかにおいて幸福になれる一番基本となる姿勢であります。

第五に、素行を正しくして、常に正確な予算生活の実行者となること。

まず生活が安定していかないといけません。生活の安定、これが全ての基本となります。そのためにも素行を正しくしなければなりません。世のなかには常に正確な徹底した予算生活を実行して生活の安定している者は結構多いのです。しかし、できることなら、更にたくましい経済力のある人となるために、研究努力することが大切であります。そこで私はお金を「たばこ銭」というように軽々しく扱う考えを封じております。それが私の学園で喫煙を禁じている大きな理由の一つです。また生徒間のお金の貸借は厳禁しています。社会に出たときには、借金をする機会も出て来ると思いますが、その場合でも個人から借りることを強く戒めていきます。ときにはそれが命取りになることすらあるからです。

「必ず銀行や、しっかりした金融機関で借りなさい。そしてその返済は必ず返済期限の前日にするように」と言っております。そうすれば借金が預金になり、何よりも信用という大きな財産に変わるからであります。学生生活においては無形の財を確保することであり、即ち本学園の建学の精神をよく理解し、教育方針によく従った上に真理を尊び、平和を愛し、立派な成績をあげることが、有形の財を産み出す道に直結しているからであります。

第六に、福の神になること。

人間の歩む道を私は仮に智・愚・善・悪の四つに分けてみます。

その一は、善人の道。

善人の道とは、自分の利益を無視して、もっぱら公益のために尽くす生き方であり、これは聞いて結構、見て立派なようであり、我々俗人にはなかなか歩みにくいコースであります。生き馬の目でもくり抜いてやろうか、というような世知辛い世の中でもありますから、これは踏むとは言わないが踏めとも言わない。これは研究のコースです。

その二は、悪人の道。

悪人の道とは、自分の利益のために公益を害する生き方であり、これは社会道徳でも禁じておりますから絶対に慎まなければならないコースです。

その三は、愚者の道。

愚者の道とは、自分のためにもならないばかりか、相手のためにも、世の中のためにもならない生き方であり、誰も喜ばないことに脂汗をかいて大騒ぎをする。私はこれを貧乏神のコースとも言って「建学の精神に反する」ので、これを禁じております。

その四は、智者の道。

智者の道とは、自利利他、自分のためになることが相手のためになり、相手のためになることがそのまま世の中のためになり、世の模範となることを言います。これを私は智得一体の道、即ち福の神のコースと言って

おります。このコースを脱線しないように心がけ、いそがず、やまずの心構えで勤勉努力を続けて行く人間が福の神であり、安心され、尊敬され、信頼される人物であります。天は自ら助くる者を助け、人も社会も自ら助くる者を助けるように出来ておるのであります。

本学園はこの福の神を育成するのが目的であります。

以上が清風南海魂についてであります。

私どもが両親から頂いた頭の中には、約百四十億の脳細胞がおさまっているということですが、この両親から頂いたコンピュータ以上の脳細胞を清風南海魂によって徹底的に操作し、それぞれの道において、日本一、世界一の立派な人間になる目的をもつて努力することが、本学園の建学の精神として狙っているところであります。

〔宗教教育〕

このため学園生活では朝礼時には必ず「般若心経」を唱えることになっていきます。そして仏教の伝統的な正しい修行法の一つである般若心経の写経もさせております。この般若心経には仏様が悟られた話が述べられています。般若心経という言葉は問題の核心をつかむということでもあります。従って私は「物事はすべて核心にふれるまで精進努力せよ」と指導している訳であります。そして入学後は先に触れましたように本学園の創立に深い因縁があり、しかも私どもの学園をお守りいただいている高野山・法隆寺・薬師寺に参詣し、卒業の時には伊勢皇大神宮に参拝し、感謝と一層の成長を祈願することを習わしとしています。

未成年者の喫煙は法律でも禁じられておりますが、本学園では経済的観念の徹底と医学的見地からも生徒の喫煙を厳禁しております。これは仏教の戒律を守る習わしに基づくものであり、そして順法の精神に通ずるものでもあります。

また、生徒の政治的活動等については、学校の内外を問わず、原則として、これを禁止しております。

即ち、本学園では、徳・健・財三拍子そろった姿において、ルールを守り、世の中のために尽くす人物を育成することを目的としておりますので、在学中は文部科学省の定めた学習単位を完全にマスターすることはもとより、本学園の建学の精神に即した人間完成を目指して、脱線せぬよう勤勉努力しなければなりません。

〔指導理念〕

次いで聖徳太子の教えについて述べたいと思います。太子は十七条憲法の第二条に、「人、はなはだ悪しきもの鮮し、よく教うれば従う。それ三宝に帰らずんば、何をもつてか枉れるを直さん」と、仏教による指導を説かれており、また第七条には、「世に生まれながらに知る人少なし。よく念いて聖となる」(尅念作聖)と教えておられます。つまり仏教を中心とした宗教による指導、よく教えるということが私の指導理念としているところであります。私は先生方に生徒を指導する際に、よく教えてもらいたいと常々言っております。どこでも相当に教えておられますが、私は徹底してよく教えてもらいたいと言っているわけです。この『よく』が抜けておればだめであると言っているわけであります。このことは、学ぶ者にとつても同様で、亡くなられましたが大阪大学の住田教授に英語の上達の極意を尋ねましたら、「よく読んで、よく書いて、よくしゃべれ」と言われたのであります。この『よく』が教える者にも、学ぶ者にとつてもまさにポイントなのであります。

人間には無限の能力が潜在し、その人でなければもつていない独特なものをもっているからこそ尊厳なのであり、その無限の潜在能力は、必ず引き出し得るものであると私は確信しております。

私のこの信念は、私の師であり私が最も尊敬し、しかも大きな影響を受けた江間俊一先生の実践によって培われたものであります。先生は晩年東京の議会議長にまでなられた方で、十八歳の時カタカナで書かれたラブレターも読めないほど勉強が嫌いでしたが、発奮して道教の教えである腹式呼吸を徹底して実行され、同時に勉強も人一倍の努力をされて、三十一歳の時には、三千人に三十人という百倍の競争率の弁護士試験(現在の司法試験)に一番で合格され、時の総理大臣伊藤博文公から、天下一の秀才として「俊一」という名を贈られるまでになられた方でもあります。この先生の実践成果は、人間には無限の能力が備わっており、必ず徹底した修養と努力によって、それは引き出しうることを示したものであります。このことが学園をつくらうと思いついた大きな理由の一つでもあり、私の教育理念としてきたところでもあります。

以上が本学園の教育についてであります

建学の精神

徳・建・財・三拍子をそろった姿でルールを守り、世の中のために尽くす人間となるために勤勉努力する人材を育成する。

教育目標

清風南海魂を獲得させ、福の神すなわち社会の全てから安心と尊敬と信頼（徳・健・財）される人物を育成する。

教育方針

勤勉と責任とを重んじ、自立的精神を養うと共に、明朗にして誠実、常に希望の中に幸福を見出し、社会の全てから安心と尊敬と信頼の対象となり、信用され得る人物を育成するため、仏教を中心とした宗教による教育を実施する。

清風南海魂

清風南海魂とは、社会の全てから安心と尊敬と信頼される人物になるという目標を、実行させる精神力であり、実現させる魂である。

清風南海魂を体得するためには

- 第一、 正しい判断力を育成し、鋭い断行力を養うこと。
- 第二、 先祖伝来の宗教を中心に敬神崇祖の念を養い、信仰心を確立し、信念と不屈の精神力を身につけること。
- 第三、 常に節制を守り、体力の錬磨向上を計り、徹底した精神努力をすること。
- 第四、 礼節を重んじ、父母を大切にし、先祖に感謝し、年長者や先生を尊敬すること。
- 第五、 素行を正しくして、常に正確な予算生活の実行者となること。
- 第六、 常に自利利他・福の神のコースを脱線せぬよう心がけ、急がず、息まらずの心構えで勤勉努力を続けること。

頭髪規定について

本学園では入学試験で教育方針など受験生と保護者の一人一人に、その賛否の確認をとり、本学園の教育方針に賛同し、入学を希望する受験生とその保護者に対しては、本学園の約束事を厳守することを誓約して頂いております。

本学園では仏教を中心とした宗教教育を実施しており、髪型は原則として男子は丸刈りであります。丸刈りは、流行に迷わず、精神的にも確固とした忍耐力を養うための『行』として実行させております。しかし希望者には長髪も認めています。その場合は丸刈りと同様の精神で、頭髪の裾と耳もと全体を刈り上げるように規定しております。

これは、単に髪型が生徒らしい望ましいものであるという意味で規定しているのではなく、教育方針に基づく教育目標達成のためのものであります。

調髪に際し特に注意すべき点は次の通りです。

男子

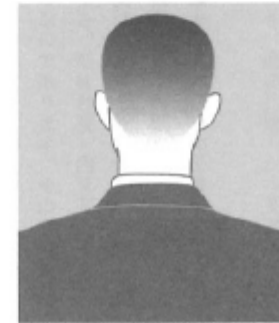
長髪の場合、裾と耳もと全体を刈り上げなければなりません。前髪は、自然に前へたらしたとき眉毛にかからない程度の長さにします。左右のみあげは、そり落したり、長過ぎたりしないようにします。額の生え際もそり込んだりしてはいけません。

女子

華美にならず、清楚な感じにしなくてはなりません。長さは、眉毛、襟にかからない程度で、襟にかかるようであれば、ゴムで結ぶこと。（ゴムの色は、黒・紺・茶とする。また、ヘアピンは、黒・紺・茶で派手でないものとし、実用以外のおよび、リボン、ヘアバンド等は禁止します。）

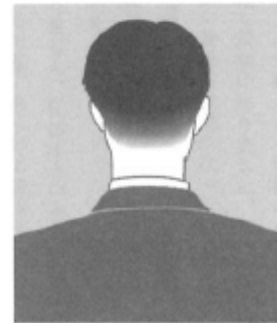
その他、髪の毛を染めたり、パーマをかけたたりしてはいけません。もちろん髪型の流行を追うようなことは許されません。なお毎月一回散髪検査を実施し、不合格者には、本学園の規定の髪型に調整させていただきます。また、散髪検査以外のときでも頭髪規定に違反している場合には即日、規定の髪型に調整するように指導しております。

スポーツ刈の例



髪型の例（男子）

長髪の例



髪型の例（女子）



あとがき

弘法大師様は、『三界は客舎の如し、一心は是れ本居なり。』と言うお言葉を遺しておられます。私達がこの世において何かを成そうと思う時、その場の思いつきや感情ではなかなか自分の思う通りにはなりません。例えばうまくできたと思っても永續性のない浅薄なものになってしまうのが常です。

校祖平岡岩峯先生は九十余歳の人生体験を踏まえて『清風南海魂』という不朽の作品をお作りになりました。多くの卒業生のなかで立派な人、成功者と称されている諸君のほとんどが、この『清風南海魂』（智徳一体の道）を人生の指針として社会につくしております。混沌とした社会を生き抜くうえで、この『清風南海魂』は自分自身を生かす道であり、真に世を救う道であり、平和実現の方途であります。私はこれこそ永劫普遍の真理と自負しております。

ご縁が有りましてこの小冊子を手にとられ、何か心に響くものをお感じになり、それが希望の中に幸福を見出して生きる何かの道しるべとなれば心より嬉しく思います。

合掌

清風南海学園

理事長 平岡正巳